奇岩の連続！紀ノ川から天然遡上もある渓谷相の川

玉川峡（丹生川）

九度山から高野山に向かう道を途中で逸れて河根方面に上っていく道路沿いを流れているのが玉川峡と呼ばれる丹生川。都会から近く景色もよいため行楽客の多さは半端ではないがアユも人慣れしているという

解説◎上西啓文

点在する大きな石の上や岩盤の周辺に多くのアユの姿を簡単に見つけることができる。放流アユだけでなく本流・紀ノ川からの遡上も多い

2013年8月11日、お昼前後2時間ほどの釣果。18cm前後の釣りごろ、食べごろのアユがよく掛かった

岩盤に大小の石が絡む迎の辻橋周辺のポイント。いくつもの流れがあるので、ひとつひとつ丁寧に探っていく

複合メタルの泳がせ釣りで

玉川峡（丹生川）は霊峰高野山の麓、摩尼川を源流として大小の岩と岩盤が織りなす渓谷相の川。奇石と大小の滝が多く県の名勝にも指定される。伊都郡九度山町付近で紀ノ川に流れ込む全長約24kmの支流である。

そのうちアユ釣りが普通にできるのは玉川漁協管轄の最下流部（関西電力堰堤跡）から約20km。それより上流部は川幅も非常に狭く入川し難い場所になる。

近畿圏はもとより和歌山県内の人にも案外知られていない釣り場の1つであるが、この川でないとダメという釣り人も少なくない。理由は美しい景観と綺麗な水、綺麗なアユがいるからだろう。水量はさほどではないが上流部から下流部まで、たまにトロ場がある程度で岩盤、大岩、大小の石が入った段々瀬が続く。湖産を中心に海産、人工産約1000kgの稚魚放流に加え、紀ノ川からの天然遡上もある。

釣れるアユのサイズは最大で25cmくらいだが盛期の増水後は良型がよく掛かる。川幅は狭くサオは9mが振れる場所もあるが、周りの立木や枝を考えると6・5～8mのものが最適と思われる。初期は細イトでもよいが盛期になると型もよくなりアタリも強くなるため、掛かった瞬間に大岩や石に触れて切れること多い。泳がせ、引き釣りの両方ができて摩擦にも強い複合メタルがベストだろう。ハリは渓谷相なので根掛かりを考えるとキツネタイプが好ましいが、ストレートタイプを使用するのであればハリスを少し硬めのものにしておくことだ。

オトリ店は流域に3軒。なかにはキャンプ場を兼ねて営業しているところもある。道路から川に下りやすいためキャンプやバーベキューなどの行楽客が非常に多く、特に夏休みは車の通行にも苦労するほど。

簡単に川に下りられるところは行楽客が多いので、アユ釣りは必然的に入川の難しい場所となる。人込みを避けての釣りになるが人が多いためアユもかえって人慣れし、人が泳いでいる近くでもあまり逃げずにいることがある。渇水時に川を渡ってもすぐ元の場所に戻ってくるので、静かに釣っていれば案外よく掛かる。

気を付けてもらいたいのは道路の状況。2014年1月現在、前年の水害での崩落等により道路が寸断されている場所があるが、予定では6月ぐらいには復旧されるらしい。念のため釣行前に漁協に問い合わせてほしい。

上西啓文さんの仕掛け

tamagawakyou.indd 24-25
2014/03/22 12:18